九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

鷲見文庫点描

田村, 隆
九州産業大学講師 | 九州大学附属図書館研究開発室特別研究員

https://doi.org/10.15017/15442

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報. 2008/2009, pp.21-26, 2009-07. Kyushu University Library, Research and Development Division
バージョン：
権利関係：

論文

鷲見文庫点描

田村　隆[†]

<抄録>

九州大学文学部に所蔵される鷲見文庫は，京都の竹苞書楼を通して購入されたものである．これは，鳥取藩に仕えた鷲見家の旧蔵書であり，九州大学の他に鳥取県立博物館にも兵学書や藩政史料の類が所蔵されている．旧蔵書の全容が垣間見える資料は東洋大学の稲葉文庫に存し，それらの閲覧を通して得た知見を報告する．

<キーワード>　鷲見文庫，九州大学文学部，佐々木惣四郎，鳥取県立博物館，鳥取県立図書館，稲葉文庫

A Note on The Sumi-Collection

TAMURA Takashi

1. 鷲見文庫の所在

九州大学文学部の書庫四層の一角に，〈国文／5〉のラベルが貼られた300冊余りの和本が並んでいる．この蔵書群が本稿で取り上げる「鷲見文庫」であり，「すみぶんこ」と読む．ただ，中央図書館の支子文庫のように書架や請求記号に表示があるわけでもなく，音無文庫のように文庫を示す蔵書印が捺されているわけでもないので，文庫として意識されることはほとんどないのではあるまいか．一冊ずつの背に「鷲見」あるいは「スミ」と墨書した本もあるが，それも統一的なものではなく，薄い本などには見られない．かつては〈国文／鷲見文庫〉という分類もなされていたことが古い目録カードから知られ，本にも所々ラベルの重ね貼りの跡が見られるのだが，その分類は現在は〈国文／5〉に改められている．

鷲見文庫は鳥取藩に仕えた鷲見家の代々の旧蔵書で，保明（寛延3－文化5年）・安歆（天明4－弘化4年）父子の詠草など鷲見家ゆかりの資料のほか，『源氏物語』や『伊勢物語』などの古典の注釈，また『職原鈔集解』や『官職浮説或問』といった有職故実についての写本などが見られる．鷲見文庫の資料が紹介されたものとして管見に入ったものに，鳥取県立博物館特別展図録『女ならでは世は明けぬ―江戸・鳥取の女性たち』（平成18年）や大鹿久義「鷲見安歆宛伴信友書状」（『温古叢誌』38，昭和59年11月）などがある．前者の図録には，文系合同図書室の貴重書室に所蔵される『きそのみちの記』（文化3年成立）と『木曽道おぼえ書』（同）の二点が掲載されている．その他，『米子市史』にも同書への言及がある．

鷲見文庫受入の経緯は些かややこしい．文学部の図書原簿によれば，〈国文／5〉に分類される鷲見文庫は117点337冊とある．その大半は昭和2年8月15日に受け入れられたもので，図書番号で言えば，40255番の『若狭国神名帳私考』から40367番の『鷲見慶明詠草』に至る．供給人は中央図書館の図書原簿に佐々木惣四郎とあり，京都の竹苞書楼からの納入と見られる．現在の御主人は七代目佐々木惣四郎氏だが，氏に電話で伺ったところ，この時期は五代目にあたるとのことであった．

ところが，図書番号4万番台から成るこの鷲見文庫の中には，受入時期の異なる2万番台の書物が5点だけ混じっている．すなわち，

21929　竹取翁物語解　　大6冊　天保2年刊
21941　伊勢物語新釈　大6冊　文政元年刊
21950　雨夜物語だみことば　大2冊　安永6年刊
21958　松廼落葉　　大5冊　刊（無刊記）
22017　円珠菴雑記　大1冊　刊（無刊記）

の5点である．受入日は5点とも大正15年11月5日．受入時に漏らした何点かを後で追加分として受け入れたという話ならば事情はわかりやすいが，今回の場合は日付の順序が逆で，昭和2年に受け入れられたはずの鷲見文庫に，すでに前年に受け入れられている5点が紛れ込んでいるのである．これは一体どういうことなのか．この5点も同じく鷲見家に由来する書物であるというのだろうか．

[†] たむら　たかし　　九州大学附属図書館研究開発室特別研究員，九州産業大学講師　E-mail:tamura.t@ip.kyusan-u.ac.jp

2. 鷲見文庫の概要

その問題を考えるに先立ち，まずは現在〈国文／5〉として配架されている「鷲見文庫」の一覧を掲げておこう．文庫の規模としては，先述のごとく昭和 2 年 8 月 15 日に受け入れられた 113 点 318 冊に大正 15 年 11 月 5 日に受け入れられた 5 点 20 冊が加わったものである．

これを単純に合計すれば本来は 118 点 338 冊であるはずだが,『出羽国大友久磐長歌』1 冊（図書番号 40357）が文学部図書原簿（中央図書館の原簿よりも後に作られている）の段階ですでに漏れており，現物も見当たらないことから，早い段階で失われたものと考えられる．請求記号も不明．よって，文学部の原簿から窺い知れる鷲見文庫は以下の 117 点 337 冊である．作品に付した通し番号は，鷲見文庫の請求記号に基づいている．図書原簿を参考に，〈国文／5〉の後に続く番号の順に配列した．また，現物が確認されなかったものについては，図書原簿および目録カードの情報によって補った．貴重書に指定されているものについては【貴】と記した．尚，所々太字ゴシック体になっている理由は後述する．

1 **雅言集覧**
2 古訓古事記
3 日本書紀
4 文徳実録
5 **出雲風土記解** 【貴】
6 **中臣祓詞要解** 【貴】
7 諸国風土記逸文稿 【貴】
8 **伊勢物語中孝説** 【貴】
9 松の藤靡 【貴】
10 **菊説** 【貴】
11 叙位次第 【貴】
12 関市令義解 【貴】
13 米餅搗訓并粢之考 【貴】
14 **萬葉問聞書** 【貴】
15 萬葉和歌集
16 **竹取翁物語解** ＊大正 15 年受入
17 **伊勢物語新釈** ＊大正 15 年受入
18 土佐日記考証
19 **源註拾遺**
20 **円珠菴雑記** ＊大正 15 年受入
21 雨夜物語だみことば ＊大正 15 年受入
22 **百人一首改観抄**
23 百人一首峯梯
24 **新古今和歌集**
25 **美濃の家づと折添**
26 新古今集渚の玉
27 **四十八番歌合** 【貴】
28 きそのみちの記，木曽道おぼえ書 【貴】
29 令三辨 【貴】
30 古今和歌集 【貴】
31 神楽催馬楽私論 【貴】
32 文政十年女君入湯供記 【貴】
33 鷲見翁家集稿 【貴】
34 神楽催馬楽考
35 地名類聚
36 **朝顔**
37 職人歌合
38 **琴私考**
39 **表章伊勢日記附証**
40 鉄槌
41 鈴屋答問録
42 **四十八番歌合**
43 三十首組題歌合
44 神璽三辨
45 **建保職人歌合**
46 **職人歌合** ＊文学部原簿に図書番号未記載
47 **おもひぐさ**
48 神社私考
49 **鈴屋和歌会式**
50 仮名本末
51 比古婆衣
52 大刀契考
53 **玉勝間まなびのことぐさ**
54 瀬見小河
55 長等の山風
56 **瀛津島防人日記**
57 **参宮紀行**
58 蕃神考
59 **姓序考**
60 **松廼落葉** ＊大正 15 年受入
61 **紹運録**（群書類従第六十上中下）
62 神階録
63 中外経緯伝
64 和歌集
65 蕙門評価点詠草
66 草稿
67 遺稿
68 三器考 【貴】
69 後醍醐天皇日中行事 【貴】
70 伯陽六杜道記 【貴】
71 官職浮説或問 【貴】
72 馬毛名歌合解 【貴】
73 **伊香保之日記** 【貴】
74 **名草濱子日記** 【貴】

75　真暦不審考辨　【貴】
76　有職玉廼枝　【貴】
77　官職難儀
78　負専考稿
79　亮々草紙
80　風俗今様神楽歌
81　神武紀巡幸路次辨
82　経済録拾遺
83　古学意をよめる歌ども
84　鴨長明方丈記
85　詩歌の差別
86　**雪舟禅師碑詞**
87　若狭国神名帳私考
88　福原東馬盛尚之碑文
89　玉の屋会始の歌
90　散楽
91　返白拷の御考
92　臣道
93　**職原鈔集解**
94　残桜記
95　高橋氏文考注
96　験の杉
97　易考説
98　**やつれ簑の記**
99　**田簑の記**
100　源平拾遺
101　伯耆民談記
102　**官職秘抄**
103　**類聚三代格**
104　伊福部姓系
105　かくれがの
106　三鳥考
107　**波波迦説**
108　**読史竊述**
109　神爾三辨
110　**二種日記**
111　詠草
112　**左右手肩考**
113　旅の道くさ
114　貝つくし百首
115　名跡蓬紙
116　鈴屋翁略年譜
117　鷲見慶明詠草

3. 大正 15 年 11 月 5 日

鷲見文庫に繰り入れられている 5 点は，先述したように大正 15 年 11 月 5 日に受け入れられたものである．図書原簿でこの 5 点を確認すると，前後に「佐々木惣四郎」から購入した書物が多数見出された．すなわち，この 5 点と同じ日に，同じ書肆竹苞書楼から購入した書物が他にも存在しているのである．

以下は，そのほとんどが〈国文／5〉の「鷲見文庫」に属していない，大正 15 年 11 月 5 日受入分の 92 点 406 冊である．なぜこのうちの 5 点のみが鷲見文庫に繰り入れられたのかという疑問が生じるが，この 5 点にはいずれも「スミ」，「鷲見」などの背文字が見られるために，昭和 2 年より後に鷲見文庫として認められたのであろう．ただ，その判断は，背文字のない残りの書物が「鷲見文庫ではない」ことを意味するものでは必ずしもない．おそらくは，「鷲見文庫であることが確認できない」という消極的事情で混排されたに過ぎないものと思われる．鷲見文庫を示す何らの指標もない以上，やむを得ない措置とも言えようが，同じ日に同じ書肆から購入した書物群のうち，5 点のみを鷲見家由来と見るのはいかにも不自然に思われる．

これらの書物はまとまっては所蔵されず，文学部の通常の図書分類に基づいて混排されているので，閲覧の便を図って，図書番号の順に並べた書名の後に請求記号を付した．

1　**竹取翁物語解**　（国文/5/16）
　＊鷲見文庫に繰入
2　竹取物語俚言解　（国文/17F/2）
3　竹取物語抄　（国文/17F/1）
4　**大和物語**　（国文/17C/1）
5　唐物語　（国文/17L/1）
6　**栄花物語**　（国文/20A/1）
7　狭衣　（国文/17G/1）
8　土佐日記　（国文/18A/1）
9　土佐日記舟の直路　（国文/18A/6）
10　**土佐日記考証**　（国文/18A/3）
11　首書土佐日記纂註　（国文/18A/2）
12　土佐日記燈　（国文/18A/5）
13　**伊勢物語新釈**　（国文/5/17）
　＊鷲見文庫に繰入
14　伊勢物語改成　（国文/17B/10）
15　伊勢物語傍注　（国文/17B/8）
16　**伊勢物語拾穂抄**　（国文/17B/4）
17　**伊勢物語闕疑抄**　（国文/17B/3）
18　源氏小鏡　（国文/17F/3）
19　**源氏目案**　（国文/17F/10）
20　**源氏物語湖月抄**　（国文/17F/11）
21　源語忍草　（国文/17F/5）
22　雨夜物語だみことば　（国文/5/21）
　＊鷲見文庫に繰入

23 紫文製錦 (国文/17F/6)
24 新論紫史 (国文/17F/8)
25 撰集抄 (国文/21I/1)
26 十訓抄 (国文/21D/1)
27 吉野拾遺 (国文/20H/1)
28 衝口発 (国文/14E/2)
29 **鉗狂人** (国文/14E/3)
30 **松廼落葉** (国文/5/60)
＊鷲見文庫に繰入
31 **三のしるべ** (国文/14D/1)
32 **真暦考** (国文/10F/3)
33 国号考 (国文/10F/4)
34 宇治拾遺物語 (国文/21C/2)
35 徒然草諸抄大成 (国文/19D/4)
36 **菅笠日記** (国文/27B/1)
37 **万葉集楢の落葉** (国文/26D/21)
38 万葉集緊要 (国文/26D/35)
39 万葉集 (国文/26D/3)
40 厚顔抄 (国文/26C/1)
41 万葉集佳調 (国文/26D/8)
42 後撰和歌集標注 (国文/26F/3)
43 **後撰和歌集新抄** (国文/26F/2)
44 百首異見 (国文/26P/1)
45 六帖詠草 (国文/26T/8)
46 柿園詠草 (国文/26T/17)
47 黄中詠藻 (国文/26T/16)
48 柳園詠草 (国文/26T/22)
49 賀茂翁家集 (国文/26T/6)
50 稲葉集題詠 (国文/26T/10)
51 浦のしほ貝 (国文/26T/13)
52 葎居集 (国文/26T/37)
53 桂園一枝 (国文/26T/11)
54 桂蔭 (国文/26T/24)
55 **琴後集** (国文/26T/7)
56 浦のしほ貝拾遺 (国文/26T/13)
57 桂園遺稿 (国文/26T/12)
58 しのぶぐさ (国文/26T/20)
59 閑田文草 (国文/25B/16)
60 松屋文集 (国文/25B/14)
61 寄居文集 (国文/25B/25)
62 耳底記 (国文/26B/9)
63 細川幽斎聞書 (国文/26B/8)
64 ささめごと (国文/27B/1)
65 玉の緒繰分 (国文/10G/12)
66 あゆひ抄 (国文/10G/1)
67 かざし抄 (国文/10G/2)
68 下学集 (国文/3D/2)
69 **和字正濫抄** (国文/10E/2)
70 八雲御抄 (国文/26B/4)
71 古言梯標註 (国文/10E/6)
72 歌格類選 (国文/26B/6)
73 **和読要領** (国文/12/24)
74 新刊倭玉篇 (国文/3F/6)
75 祝詞式正訓 (国文/16A/6)
76 **出雲国造神寿後釈** (国文/16A/4)
77 中庸私抄章句 (国文/11/10)
78 **評註校訂神皇正統記** (国文/20G/1)
79 義経記 (国文/22F/1)
80 **公事根源集釈** (国文/15A/6)
81 **新撰姓氏録** (国文/1B/1)
82 清輔袋草紙 (国文/26B/1)
83 吾吟我集 (国文/26V/1)
84 古今夷曲集 (国文/26V/2)
85 ことばのその (国文/3H/8)
86 近世文芸叢書 (国文/6A/15)
87 落窪物語 (国文/17E/1)
88 万声大統語 (国文/別/14)
89 **円珠庵雑記** (国文/5/20)
＊鷲見文庫に繰入
90 和字解 (国文/10E/4)
91 倭字古今通例全書 (国文/10E/3)
92 和名類聚抄地名索引 (国文/3B/4)

文学部の分類に応じた請求記号を眺めていくと，混排の実態が窺える．鷲見文庫の内容と共通する 17（平安・鎌倉・室町時代の物語），25（徳川期の日記・紀行・随筆・心学・書簡），26（和歌）などに分類される本が多いことが見て取れ，また昭和 2 年受入分と重複がないことからも，92 点のうち鷲見文庫に繰り入れられなかった残りの 87 点についても，鷲見家の旧蔵書である可能性は十分にあると思われる．ただし，先述したように本自体に鷲見家を示す何の痕跡も残されていないため，これらをも鷲見文庫と呼び得るのか否かについては，依然決め手を欠く．

4. もう一つの鷲見文庫

ところで，実は九州大学以外にも鷲見文庫は存在する．鷲見家が鳥取藩池田家に仕えたことは先に述べたが，鷲見家ゆかりの地である鳥取の県立図書館にも鷲見文庫が存在した．『鳥取県中央図書館報』第 108 号（昭和 16 年 5 月）には，

郷土資料の寄贈

鳥取市御弓町鷲見町鷲見峯次氏は今回その家蔵にかゝる兵書類百五十余部並に往復文書類数千通を

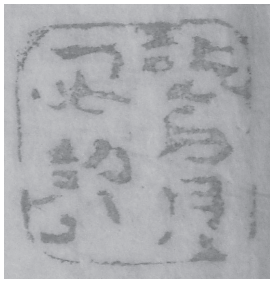
本館に寄贈せられた．右の内兵書類は鷲見家代々の蒐集にかゝるもので武経要略，武教全書，武門要鑑，武道初心集，孫子国字解，驥師馬伝集，武経知行書等の兵書より武道各流の伝書免許状の類を含むもの．また往復文書類は権之亟保明，勘解由安喜，辰三郎保合の三代に亘り大凡寛永年間より安政年間に亘る職務上の往復文書で整理の上は貴重なる参考資料となるもの少くない見込である．本館にては斯かる郷土資料の大量寄贈を感謝するため特に「鷲見文庫」を設定し寄贈書全部を一括包容保存することゝなつた．

と，文庫設立の経緯が説明されている．本学の鷲見文庫についても，文中の鷲見峯次氏の意向によって受け入れられたのかもしれない．因みに，この鷲見文庫は昭和 47 年 9 月 19 日に県立博物館に移管され（『鳥取県立鳥取図書館 50 年誌』），現在は博物館で閲覧できる．先に県立図書館に「存在した」と過去形で述べたのはそういった事情による．その他，江田島の旧海軍兵学校にも兵学書の一部が存在するという．鳥取の鷲見文庫をめぐっては，矢谷寿雄『鷲見文庫問題について』（私家版，昭和 47 年）にも言及がある．

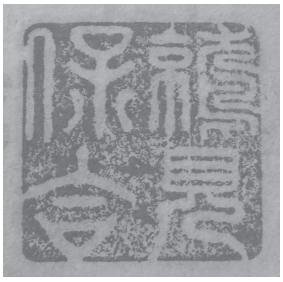
平成 21 年 5 月 9・10 日の両日，九州大学附属図書館資料整備室図書目録係の山根泰志氏と共に鳥取県立博物館および鳥取県立図書館を訪れた．

鳥取県立博物館には，『要門伝授記聞』や『武門要鑑抄口義』，『兵法神武雄備集』など 102 点の兵学書が所蔵されていた．いずれも写本で，他に鳥取藩の藩政史料など 7000 点余りも所蔵される．

これらの中に鷲見家ゆかりの蔵書印が二種確認できた．ともに九州大学の資料には全く見られないものである．博物館の許可を得てその印影を次に掲げる．



「鷲見／安歆」
朱文方印
（無題：兵学関係の覚書）



「鷲見／保合」
白文方印
（『太田懸寄縄之図』）

このうち，右の保合の蔵書印については，県立図書館所蔵の詠草の一冊にも見出された．だが，いずれにせよ広く用いられた蔵書印ではないようである．そのことが鷲見文庫の全容を窺うことを一段と困難にしている．

5. 稲葉文庫の鷲見氏蔵書目録

鳥取を訪ねた際，来見田氏から東洋大学附属図書館の稲葉文庫に鷲見家の資料が多く残されている旨をお教えいただき，5 月 22 日に同図書館を訪ねた．東洋大学は稲葉文庫の旧蔵者である山本嘉将氏が学位論文を提出した大学でもある（山本嘉将『加納諸平の研究』の序に言及がある）．稲葉文庫の資料のうち，『鷲見氏蔵書目録』，『鷲見氏蔵幅目録』，『鷲見歴代系譜考草稿』の三点を閲覧した．

『鷲見氏蔵書目録』写本一冊（図書番号 385233）は，和歌の詠草の反故を二折にして書名と刊写の別と冊数を記入したもので，14 枚の楮紙を仮綴し表題・表紙や奥書はない．『鷲見氏蔵書目録』とは山本嘉将氏もしくは東洋大学が与えた仮題であろう．寸法は縦 13.7 糎，横 39.2 糎．一部重複が見受けられるものの，のべ 464 点に及ぶ書物の名が連ねられている．

この目録を書き写して帰り，九州大学の大正 15 年および昭和 2 年受入の蔵書群と比べてみたところ，昭和 2 年受入分のうち 36 点がこの目録に記載されていたほか，注目すべきことに，大正 15 年受入分についても 24 点の書名を目録に見出し得た．先に掲げた書名一覧のうち，太字ゴシック体で記したものが実はそれにあたる．『湖月抄』などの基本図書のみならず，『出雲国造神寿後釈』，『鉗狂人』などを含めてこれだけの一致を見るということは，大正 15 年 11 月 5 日に受け入れられた 92 点 406 冊についても，昭和 2 年受入分と同様，鷲見家ゆかりの書物であると考えてよいであろう．同じ日に同じ書肆から購入していることから推して，目録に掲載されていない書物については，目録作成より後に鷲見家が入手したものと考えたい．〈国文／5〉に属する鷲見文庫の総数（117 点，337 冊）は，実は本学に受け入れられた鷲見家旧蔵書の半分に過ぎず，実際にはほぼ倍の数に相当する 205 点 724 冊（所在不明分を含む）に上る可能性が高い．

目録には他に，『孝経大意』や『杜律集解』などの漢籍や，『徂徠集』や『訳文筌蹄』といった儒学関係の書物も多く見られるが，それらは九州大学にも鳥取県立博物館・図書館にも所蔵されていない．逆に，鳥取で閲覧した兵学書の類はこの目録には記載されておらず，これらも目録が作られた後に鷲見家に入った本であると推測される．

鳥取の文芸誌『太藺』の第 4 巻 8 号（昭和 16 年 8 月）に掲載された山本嘉将「紙魚学」に次のような一節があって注目される．

> 因みに言ふ「鷲見文庫」は兵学校（兵書），架蔵（本藩文化資料），県立図書館（兵書，藩政資料），の他に，九州帝大（和漢書）にある．これは同学小島教授の御教示によれば莫大な数で，本藩資料も多く，僕にも一度来て閲覧したらどうか，との御言葉だがまだ機を得ない．其の他師範学校，諸家にも散在する．

氏の言う「同学小島教授」とは，この時期に文学部国語学国文学講座の教授であった小島吉雄氏のことであろう．受入に際しても，あるいは何らかの関わりがあったのかもしれない．

一度目の受入がなされた大正 15 年と言えば，文学部国語学国文学講座開設の年である（設置日は 5 月 12 日）．講座開設にあたって，古典研究に必要な基本図書を揃えたのであろう．天文学者寺尾壽氏の旧蔵書である音無文庫は，昭和初年に「是非，新設の法文学部のために譲り受けたい」（寺尾新『父之書斎』）との小川政修初代附属図書館長の懇望によって中央図書館に受け入れられたというが，そのようなやりとりが鷲見文庫の折にも行われたのであろうか．

これまで述べ来たったごとく，今のところ鷲見文庫と認められているのは〈国文／5〉の分類に属する昭和 2 年受入分のみで，大正 15 年受入分は明確な指標もないままに混排されている．そもそも，鷲見文庫という文庫の存在自体，ほぼ忘れ去られているのが現状であろう．調査の過程で，書名が「鷲見」で始まる本の目録カードを，ワ行の棚で見つけたこともあった．

だが，大正 15 年受入分と昭和 2 年受入分を本来の鷲見文庫として合わせて考えれば，実は国語学国文学研究室が所蔵する古典籍の土台を成していることが改めて確認される．中央図書館の音無文庫などとともに，講座草創期の古典研究を支えた書物であったことが想像されて興味深い．

付記

鳥取県立博物館の来見田博基氏には，同館所蔵の鷲見文庫について閲覧の便宜を得，東洋大学の稲葉文庫についても教示いただいた．鳥取県立図書館の網浜聖子氏，渡邉仁美氏からは関連文献の教示を得た．また，九州大学附属図書館の多くの方々に図書原簿閲覧等々の高配を得た．特に山根泰志氏には調査の全般にわたって，適切な助言を頂戴した．記して御礼申し上げる．

尚，本稿は，平成 21 年度文部科学省科学研究費補助金若手研究 B（研究課題番号 20720056）による研究成果の一部である．